

ミャンマーの緋の衣

緋色の衣が燃え始めた

六十年代に日本でも燃えた僕等の心の火が

今ミャンマーで日に日にその炎を増している

仏教の国ミャンマーで僧侶の緋の衣が

静かに街を流れ

学生や市民達がそれを囲むようにして流れを太らせる

シンボルのスー・チーもまだ健在だ

祈りのデモが緋色の水となって

静かに不気味に街をながれる

五万が十万へと市民は水嵩を増し

僕が夢見る民衆の意思表示が緋色の帯となって

テレビ画面一杯に広がる

ガソリンの値上げに端を発したと言われるが
軍事政権が武力で人間を黙らせている

その自由のなさ、その生気のなさに

ミャンマーに生きる人間たちが抗議しているのだ

政府は武力行使を仄めかして

再び圧力をかけているが

緋色の流れは消えはしない

世界で見守る同じ人間たちが

その火を消しはしない

国の心にダイヤのように輝く

仏教という宗教を僕は信じる

あなた方が作るこの緋色の抗議を

それを取り巻く若い市民達の抗議を

(2007.9.26)